

「ひとり親家庭サポート地域拠点強化事業
～ひとり親家庭が地域とつながる本と笑顔の居場所プロジェクト～」

申請事業一覧

No.	団体名	事業対象エリア	申請事業名	事業概要
1	認定 NPO 法人 happiness	京都府 京都市	子ども食堂、私設ライブラリーを通したひとり親家庭支援事業	<p>この事業は、ひとり親家庭が社会的に孤立することを防ぎ、安心して暮らせる地域となることを目指す。2016 年から子ども食堂を開設してきた NPO 法人 happiness は、これまでの子ども食堂活動や体験活動をさらに発展させ、新たなひとり親支援拡充に取り組む。具体的な活動は以下の通り。</p> <p>1. 本のある拠点とひとり親家庭支援の連携事業 1-1. 2023 年 5 月から私設図書館「まちライブラリー」の運営を始めており、書籍および賃貸物件は整備されている。ひとり親家庭に「誰でも利用できる居場所」としてのライブラリーの認知度向上を目指す。 1-2. 本法人の中核となる活動である子ども食堂を、ライブラリーのスペースを使用して運営する。ひとり親家庭が参加しやすいよう、誰でも参加できる形で受け入れを行う。必要であればパントリー事業も利用してもらう。さらに、ひとり親家庭向けの生活サポートのため、定期的に相談会を行い、看護師、弁護士、ソーシャルワーカーなどの専門家とつなぐ。 1-3. ひとり親家庭を含む地域の子どものに向けて、本の読み聞かせをはじめとした図書イベントを京都市図書館と連携して行う。 1-4. 一昨年より企画・実行してきた地域のお祭り(子ども食堂の PR イベント)にて、ひとり親とその子どもが安心して暮らせる地域であることをアピールする。</p> <p>2. ひとり親家庭支援の普及事業 2-1. ひとり親家庭支援に特化した研修会を行い、連携体制を強化する。社協・市内の団体と合同で、全6回の研修を企画する。 2-2. 京都市南区内には 10 箇所の子ども食堂が活動している。これら子ども食堂のネットワークおよび京都市社会福祉協議会と、ひとり親家庭支援のガイドラインを作成する。 2-3. 本事業の活動成果を、京都市内の子ども食堂と共有するため報告会を開催する。</p>
2	特定非営利活動法人シンママ応援団	石川県 金沢市	Book&Nook(ぶっく&ぬっく)金沢～ひとり親家庭の親と子が自由に未来を選択できる社会の実現へ向けた居場所づくり～	<p>この事業は、石川県のひとり親世帯の親と子が共に自立のための第一歩を踏み出すことを目指す。2017 年からひとり親支援を行ってきた NPO 法人シンママ応援団(設立時:金沢シングルマザーの会、2021 年:石川シングルマザーの会へ改名、2023 年法人化)は、これまでの交流勉強会事業(シンママゼミ)や体験格差解消事業(親子イベント)、フードパントリー等の活動に加え、新たにひとり親家庭の親と子が自由に未来を選択できる社会の実現へ向けた居場所「Book&Nook(ぶっく&ぬっく)金沢」の運営に取り組む。具体的な活動は以下の通り。</p> <p>1. 本のある拠点とひとり親家庭支援の連携事業 1-1. 本のある拠点の整備・運営 1-2. ひとり親 ICT スキルアップサロンの運営 1-3. ひとり親世帯の中高生を対象とする個別学習支援</p>

				<p>2.ひとり親支援者の研修・育成 2-1.メタファシリテーション研修への参加 2-2.支援者ガイドラインの作成</p> <p>3.広報事業 3-1.ホームページ、チラシ、SNS を使用した広報活 3-2.ひとり親家庭への本のプレゼント 3-3.他団体への成果報告会</p>
3	認定 NPO 法人 STORIA	宮城県 仙台市	ひとり親家庭サポート地域拠点強化事業	<p>孤立していたり、セーフティーネットから漏れてしまっているひとり親やその子どもたちに対し、下記の流れを通して支援者・地域との繋がりを作り、子どもと親が安心して頼れ、相談できる「居場所」と「関係」を作る。また、当法人の相談員と地域が連携し、包摂的なソーシャルワークを行うことで本質的な課題解決を目指すと共に、本事業にて地域で見守り関わる人を増やし、ひとり親家庭を地域で支え合う「愛情が循環する」社会を築く。</p> <p><具体的支援内容とステップ> 事業背景・課題より、親子ともにまずは”つながる”ことへの心理的ハードルを下げるのが重要。 オンライン（絵本の貸出やメール相談）を経て、リアル（居場所やイベント）にて地域とつなげ、さらにメール相談でつながり続ける。</p> <p>1. 本のある拠点とひとり親家庭支援の連携事業 1-1. 「リアル」と「オンライン」を活用したアウトリーチ：繋がる+信頼関係の土台構築 ①本の居場所（拠点）の準備・開設：親子が安心して過ごせる環境づくり ②オンライン図書館「めぶき文庫」HP の準備・開設：オンラインでの本の貸出や、相談ができる仕組みによりつながり始める</p> <p>1-2. 「リアル」と「オンライン」双方で心を通わす：信頼関係構築 ①リアル親子イベント開催：親：フードパントリー付き相談会、子：絵本作りにて信頼を築く ②オンラインメール相談：当法人が得意、かつ受益者のニーズに合う相談方法にて信頼を築く</p> <p>1-3. 「居場所」と「関係」を広げ深める：地域とつながり支えあう ①定期的な親子イベントで地域との接点を増やす ②ニーズに応じた HP 上の支援継続で孤独や孤立を防ぐ</p> <p>2. ひとり親家庭支援の普及事業 2-1. 「ひとり親世帯やその子どもたちの現状や接し方」勉強会を実施 地域や連携先を対象に、ひとり親への理解を深めてもらいながら見守りをしてもらう</p>
4	認定 NPO 法人さいたまユースサポートネット	埼玉県 さいたま市	「本のある居場所」がなく地域と孤立するひとり親家庭 ～「本のある居場所」づくりを通して、社会から一人も取り残さないローカル・	<p>1 当団体は、2021 年以降、就学前の子から小学生を対象にした居場所活動を行い、1 千冊を超える絵本などを収集し、絵本を読む会を毎月開催しています。さらに併設するコモンズカフェにも絵本コーナーを作り、地域の子どもたちに開放しています。</p> <p>(1) 本事業では、コロナ禍で孤立が深まったひとり親家庭の子どもと親に対し、本部拠点である見沼区堀崎で居場所を提供し、読み聞かせ会の他に、子どもをテーマとした本を取り上げた読書会を開催します。長期の欠席・不登校の児童生徒が激増する中で、学習活動を避ける子どもも増えています。地域で、就学前からの読書</p>

			<p>コモンズの形成～</p> <p>に親しむ活動は子どもの学力の保障にもつながります。 (2) 子どもの学習・スポーツ・遠足・野菜づくり・クリスマス会などの季節の行事など、多岐にわたる体験活動を実施し、さらに魅力ある「本のある地域拠点」を形成します。</p> <p>2 実施にあたっては、 (1) ひとり親限定のトークアプリを提供・運営している「一般社団法人ペアチル」と提携し、シングルマザー・シングルファザーにターゲットを絞った効果的なつながりをつくります。 (2) 日頃から、地元で当団体と連携している読み聞かせ団体の「るびなす文庫」、数年連携している県立高校の司書グループ、また地域の図書館・書店等に協力を呼びかけます。 (3) 地域住民・団体や地元企業、行政、学校等の教育機関を訪問し、協力を得、ひとり親家庭の子どもや親を中心としたワンストップ支援のネットワークの構築を目指します。</p> <p>3 専門職によるケア・サポートや、拠点から離れた地域へのアウトリーチによる支援、また、ひとり親への支援を行っている「ペアチル」と連携し、ひとり親限定のトークアプリを併用することで、気軽な雑談・情報交換から、適切な支援を要する悩みの相談まで、よりハイリスクな環境に置かれたひとり親家庭の子どもや親への支援の質を向上させます。</p>
5	knocks! horikawa 運営委員会	京都府 京都市	<p>本のある拠点を起点にしたひとり親家庭支援ネットワーク事業</p> <p>この事業は、ひとり親家庭の保護者および子どもが安心して過ごせる場所をつくり、困った時に気軽に相談できる先、支援を求めるだけでなく支える側になれる場となることで、社会的孤立を防ぐ。さらに、相談窓口や他団体活動につながるよう情報を整理し、まとめるプロセスを体系化することで、他の地域でのひとり親家庭の社会的孤立を防ぐ居場所づくりに貢献する。knocks! horikawa 運営委員会は、これまでの活動に加え、1.本のある拠点を起点にした支援ネットワーク事業、2.包摂的なコミュニティの仲間づくり事業に取り組む。具体的には、次の活動を実施する。</p> <p>1.-①本のある拠点の整備:ひとり親家庭にすすめたい(ひとり親家庭の保護者や子どもが読みたい)書籍の充実、ハード面の整備をする 1.-②ひとり親家庭の保護者や子ども向けイベント:主に長期休暇中に子どもが過ごせる場としてイベント・ワークショップを開催する 1.-③広報強化:相談窓口や他団体とひとり親家庭がつながるため、双方への広報を行う(上京区を中心とした地域イベントへの参加と広報活動)</p> <p>2.-①相談・連携のための支援者育成講習会:安心して相談できる先として、スキルや知識を磨くための研修を受講し、他団体と連携することで相談支援体制を強化する 2.-②ガイドライン等の作成・配布:民営の図書館が居心地がよく安心して過ごせる場となるようガイドラインを作成し、ひとり親家庭を支援したい民営の図書館などの団体向けにガイドラインを配布する 2.-③他団体への活動成果報告:動画サイトのアップや学会などで発表する</p> <p>これらの活動により、困った時に頼れる、支援をお願いできるボランティア団体や行政サービスとつながる機会、地域ネットワークをつくり、さらに支援されるだけでなく支える側にもなることで、社会的孤立を感じるひとり親家庭を減らす。</p>

6	特定非営利活動法人西脇てとて広場	兵庫県西脇市	ひとり親家庭のソーシャルサポート子育て応援事業 ～ひとり親家庭の本を通じたつながりの居場所プロジェクト～	<p>私たちが運営する子どもの居場所は「生きづらさを抱えた子ども」を対象とし、その過半数はひとり親家庭である。子どもたちの生きづらさは、家庭が安定しない状況から発出したり、悪化したりする要素が窺える。ひとり親でもどこに生まれても、子どもは等しく幸せに育てられる権利がある。昨今の若い世代の親はいそがしく、共働きが通常で、ひとり親ともなれば二人分の仕事と家事を担う。愛情をかけた子育てが家庭で行き届かない時は周りにいる人がカバーをしていかなければ、貧困の連鎖は広がり、子どもは安心できる環境で育つことができない。</p> <p>私たちは、学校に行けなくても、友達がいなくても、夕刻にひとりぼっちでも、食事の用意が難しくても、「てとて広場」という拠点があり、そこに支援者がいる限り、子どもにも保護者にも寄り添いサポートすることができる。一人ではなく、そこに助けてくれる、話を聞いてくれるところがあることに大きな意義があると捉えている。てとて広場には「てとて文庫」という本やコミックが並ぶ部屋がある。その部屋は子どもも大人もお気に入りの場所である。今年度、てとて文庫の本棚を改修し、オーナー希望した人たちがセレクトした子どもと保護者向けの一箱本棚オーナー制度を始める。本を通して、悩める保護者同士や経験者が繋がることができれば、また、生きづらさを抱えていても夢を叶えた若者から子どもへのメッセージが伝われば、など、たくさんの温かい気持ちを届けたいという思いでこのプロジェクトをスタートする。貧困の連鎖を断ち切るために、ソーシャルサポート（地域の人たちの温かな親切心・思いやり）は、ひとり、またひとりと着実に、子どもと保護者がエンパワメントする力を応援することができる。ひとり親家庭の貧困についての研究（子どもの貧困調査：明石書店/山野則子編著）においても言及されている。</p>
7	特定非営利活動法人泉京・垂井	岐阜県不破郡垂井町	安心・安全な居場所づくり事業 ～ひとり親家庭が地域とつながる本と笑顔の居場所プロジェクト in 西濃～	<p>NPO 法人泉京・垂井は過去約 3 年、居場所事業を実施してきた。それはひとり親を対象とした事業ではないが、イベント参加や居場所利用者の中にひとり親の存在が目立った。社会福祉協議会担当者によると、一般的に人は「支援される側になりたくない」という心理が動き、それが支援の手を遠ざけていると言う。その層の声は社会に届かず、支援から取り残される可能性が高い。そのため、あえて「ひとり親」を限定しない継続的な居場所を開設するとともに、不特定多数が集まるイベントを開催する中でこちらから対象者にアプローチできる活動を行う。</p> <p>過去 3 年は垂井町を中心に居場所事業を行ってきたが、当事者にとってより身近に「居場所」を利用できるよう、岐阜県西濃地方全体に活動を広げていく。まずは垂井町北隣の池田町で活動する認定 NPO 法人アイキャンと連携し、同法人に一部事業を委託することによって、岐阜出張所の「居場所」機能を強化する。また、東隣の大垣市に所在し、西濃を中心にフードドライブを実施しているフードバンクぎふや西濃各地の子ども食堂等を通じて、ひとり親家庭への直接支援も実施する。</p> <p>行政や専門家を含む、ゆるやかなネットワークを西濃全体でつくることで、ひとり親家族が抱える課題解決能力の底上げを行う。活動は以下の通り。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 本のある拠点とひとり親家庭支援の連携事業 <ol style="list-style-type: none"> 1-1. ひとり親家庭が立ち寄ることができる本のある拠点整備 1-2. ひとり親家庭が立ち寄ることができる居場所の提供 1-3. ひとり親支援団体等と連携した食料・文具等提供 1-4. ひとり親家庭向けの生活サポートや相談 1-5. ミニイベントの実施 1-6. 広報活動 2. ひとり親家庭支援の普及事業

				<p>2-1. 相談・連携・居場所対応のための支援者育成研修・メンタルヘルスケア 2-2. 連携・支援ガイドライン作成・配布 2-3. 他団体への活動成果報告会</p>
8	特定非営利活動法人こどもサポートステーション・たねとしく	兵庫県西宮市	ひとり親家庭のこども達とつながる伴走支援～アウトリーチ支援と居場所支援の両輪で支える～	<p>当団体の運営メンバーは2019年より別団体においてひとり親家庭の孤立防止と家事負担減を目的に食料支援と訪問型家事・育児支援等を行ってきました。これらの活動だけでは親子関係の問題や不登校による居場所不足、学習機会や体験不足を補えないという課題を抱えていました。そこで2022年7月に独立し、当団体を設立。2023年8月に本のある居場所「たねとしくライブラリー」を開館しました。また、市民が協働してこども達を支える「一箱本箱サポーター制」を取り入れています。西宮市内外から50名の方に月額寄付と本の提供をいただいています。しかし、居場所とアウトリーチの連携が十分に生かし切れておらず、また生活環境が悪化しているひとり親家庭への支援が不足しています。また、資金面での課題があり、ひとり親支援の普及や支援者育成などに着手しにくい状況があります。</p> <p>◆本事業の3つのねらい ①アウトリーチ事業と居場所事業をより連動させます。 ②多くのひとり親家庭と出会えるよう保育士や他団体、自治体との連携を深めます。 ③ひとり親支援の普及を牽引します。</p> <p>◆事業の3つの柱 1.ひとり親家庭支援と居場所事業の連携事業 1-1 ひとり親家庭のこども達と親のための居場所運営 1-2 0歳～10代が安全に利用できる「たねとしくライブラリー」の整備 1-3 「乳幼児のいるひとり親家庭のための子育て広場」を実施 1-4 ひとり親家庭向けの訪問型支援(1)家事・子育て支援(2)子育て相談訪問(3)絵本訪問</p> <p>2.食料支援事業</p> <p>3.ひとり親支援の普及事業 3-1 スタッフ支援者育成 3-2 当事業の普及と継続のための検討活動(1)視察(2)保育士との情報交換会 3-2 連携・支援ガイドラインの作成・配布 3-3 情報発信・広報 3-4 他団体への活動報告会</p>
9	新潟県フードバンク連絡協議会	新潟県三条市	ひとり親家庭おやこが本とカフェでつながるサポート拠点強化事業～メタファシリテーター養成と図書館機能のある居場所づくり～	<p>当会が全県のフードバンク活動団体と連携し、コロナ禍の2020年4月から開始したひとり親家庭等生活困窮世帯の子どもへの食支援活動で繋がった約8,500世帯のネットワークと支援知見を基盤に、以下の3つの事業に取り組む。</p> <p>①現在当会の構成員の中で、既に支援拠点を有し、そこに図書館機能とカフェ機能を併設できる5つの地域(団体)を選出し、ひとり親家庭等が立ち寄ることができる本とカフェのある拠点整備に取り組む。選出背景として、新潟県は全国でも面積と長さが大きい地域である。県面積は47都道府県のうち5位、海岸線の長さは本州部分のみで約331km、離島である佐渡島も含めると約600kmにも及ぶ。</p>

			<p>その為、当該事業実施は、全県の地域バランスを鑑み、県南の糸魚川市（フードバンクいといがわ）、県北の村上市さんぱく地方（フードバンクさんぱく）、離島の佐渡市（フードバンクさど）、県央の燕市・三条市（フードバンクつばめ、フードバンクさんじょう）の5つを選定し可能な限り地域格差を解消できる様工夫する。</p> <p>②上記5つの拠点の周知の推進と利用体験を促進するため、ひとり親家庭等の子どもを対象としたイベント・ワークショップ等を企画・開催する。</p> <p>③ひとり親家庭の子どもや親が快適に過ごせる居心地の良い空間、安心して交流できる空間を実現するための人材育成事業として、各拠点を担う担当者やボランティアを中心に「メタファシリテーション」を学び、支援者としての色を出さず、相談対話ができる資質の向上を図る。</p> <p>以上の3事業に取り組む事で、新潟県の広大な面積を包括し地域の多様なセクターを巻き込みつつ、ひとり親家庭等おやこの不安や孤立の軽減を図り、安心して立ち寄れ、緩やかに支援とつながる入り口としての機能強化に取り組む。</p> <p>これを以って、ひとり親家庭等に対する社会福祉基盤の強化と、子どもの貧困問題に対する解決に資する。</p>
10	るーぷ	石川県野々市市	<p>「安心・安全・快適」みんなの拠点づくり ～本との触れ合いから始まるキャリア支援～</p> <p>本事業では、活動拠点を県道8号線や国道157号線からアクセスしやすい北国街道沿いの施設に設定することで、より多く人が対象となるように設計する。そして、学校に行けていない子どもたちの居場所となり、学校と自宅をつなぐ架け橋的な役割を担う。取り組む事業の概要を以下に記載する。</p> <p>1. 本のある拠点とひとり親家庭支援の連携事業</p> <p>1-1. ひとり親家庭が立ち寄ることができる拠点の整備：みんなが集まる施設の拠点化 立地の良い施設を拠点化することで、ひとり親家庭の親子が気軽に立ち寄ることができる居場所づくりを実現する。</p> <p>1-2. ひとり親家庭向けの生活サポートや相談：フードパントリーやお弁当配布、メンタルケア ひとり親家庭を対象に食事の提供やメンタルケアなどのサポートを通して豊かな生活を実現する。</p> <p>1-3. 子ども向けのイベント・ワークショップ：好き・得意を見つけるワークショップ 本棚作成ワークショップやSDGsワークショップを実施する。更に物を大切にすることを大切にするための本の修繕ワークショップも開催。</p> <p>2. ひとり親家庭支援の普及事業</p> <p>2-1. 相談・連携のための支援者育成：産官学を巻き込んだ社会インパクトの創出 企業・自治体・教育機関と連携を図りながら活動を行い、大きな社会インパクトの創出を実現する。</p> <p>2-2. 連携・支援ガイドラインの作成 連携や利用を加速させるためにガイドラインを作成し、ステークホルダーに普及する。</p> <p>2-3. 他団体への活動成果報告会 活動の成果をまとめ、ステークホルダーや同業者に展開することでノウハウの共有を行い、ひとり親家庭支援の普及を加速させる。</p> <p>上記事業を実施することにより、保護者の負担軽減や質の高い教育の提供を実現し、子どもたちが安心して過ごしながら自身のキャリアについて考える機会を創出する。</p>

11	認定 NPO 法人 CPAO	和歌山 県橋本 市	ひとり親家庭の南大阪地 域、和歌山県北部におけ る居場所づくり事業 ～機会の少ない地域にお けるひとり親家庭の リフ レッシュと本を通じたエン パワメントな場づくりプロ ジェクト～	<p>和歌山県橋本市の自然豊かな場所にある古民家「はしもとベース」を活用し、ひとり親家庭が安心して立ち寄れる、心地よい読書空間の提供を目指します。2014 年から大阪市内を中心とした子どもたちや家族に自然体験等の機会を提供してきた CPAO は、これまでの経験とネットワークを活かし、新たに南大阪地域や和歌山県北部地域のひとり親家庭向けの支援に特化した取組に着手します。具体的な活動は以下の通り。</p> <p>取組①「読書空間の整備/コミュニティづくり」:耐震・耐荷重改修を施した古民家に、親子が共に楽しめる読書のコーナーを設け、地域の新しい読書の拠点を創出します。本を通じて親子の絆を深め、地域住民が支え合うコミュニティ形成を目指します。</p> <p>取組②「楽しい本のイベント」:絵本に出てくる料理を親子で作るワークショップなど、本をテーマにした様々なイベントを通じて、子どもたちに読書の楽しさを伝え、新たな発見を促します。</p> <p>取組③「サポートと相談」:ひとり親家庭への具体的な生活支援や相談窓口を設置し、CPAO の専門スタッフや地域のボランティアが、子育てや生活の悩みに対して個別に応じる体制を整えます。</p> <p>取組④「よりよい支援・本事業のための支援者育成と連携」:本のある居場所づくりやひとり親家庭の支援に特化した研修を行い、支援者の質の向上と人材育成を目指します。また、地域の資源や支援団体との連携強化を進めることで、支援の質と範囲を広げていきます。</p> <p>取組⑤「広報・宣伝」:このプロジェクトを地域や和歌山県内外に向けて積極的に広報し、橋本市内外からの訪問者を増やすことで、プロジェクトの知名度向上と参加者拡大を図ります。 これらの取組を通じて、ひとり親家庭が抱える様々な課題の緩和を目指し、子どもたちには読書を通じた豊かな体験を提供します。本を利用し、家族の絆を深め、地域社会が互いに支え合うコミュニティの形成に貢献することを目標としています。</p>
12	有限会社ミ ューズプラン ニング	熊本県 上益城 郡 益 城町	こがみ文庫プロジェクト ～ひとり親家庭の暮らしと こころのより所～	<p>本事業は、ひとり親と地域がつながる「本と笑顔の拠点づくり」の実現を通して、ひとり親家庭の社会的孤立を軽減し、その子どもや親が「本のある地域拠点」で安心して交流でき、地域社会全体が安全で居心地の良い場所となることを目指す。私たちミューズプランニングは、2010年にひとり親家庭の自立支援事業に携わったことを機に、ひとり家庭の支援を行うようになりました。2016年の熊本地震以降は、被災地である益城町にひとり親家庭の支援拠点を設置し、地域のひとり親会「益城・阿蘇郡 シンママ・パパの会」(加入80世帯 2024年4月現在)の発足を支援。併せて、主に益城町のコミュニティスペース「こがみ舎」を拠点に、ひとり親家庭の子どもの学習支援・地域食堂の開催(毎月1回)・親の自立支援(不定期)等の活動を継続して行っている。今回私たちが新たに取り組むのは 現在拠点としている「こがみ舎」内に、こがみ文庫を設置し、気軽に立ち寄れる居場所(支援拠点)を整備。安定した運営のもと、</p> <p>1. 本のある拠点とひとり親家庭支援の連携事業 1-1本のある拠点の整備 1-2ひとり親家庭の生活サポートや相談 1-3子ども向けのイベント・ワークショップの実施 1-4広報キャンペーンと地元イベントへの参加</p> <p>2. ひとり親家庭支援の普及事業 2-1相談・連携のための支援者育成:ひとり親支援者養成講座 2-2連携・支援のためのガイドライン作成 2-3他団体への活動成果報告会の実施</p>

			などの活動を行うものである。
			事業統括の藤井は2017年～2022年まで(社福)熊本県ひとり親家庭福祉協議会において会長の役割を担い、熊本県内のひとり親(会員3000世帯)の自立支援に取り組んだ経験をもとに、現在も自社として支援活動を続けている。また今回の事業に関わる当社の主たるメンバーは、自身もひとり親であるスタッフを担当している。こがみ舎は、熊本市やその周辺からのアクセスもよく、緑豊かな庭や駐車場も備えていることから、誰もが気軽に立ち寄れる拠点の環境としては大変恵まれていると考える。今回の取り組みを通して、私たちの課題である支援活動の基盤強化を図り、ひとり親家庭の支援を継続していくためにスタッフ同力を合わせて頑張りたい。
13	特定非営利活動法人 Chance For All	東京都足立区	<p>児童館、学童、図書館、親子カフェなどの機能を備えた民設民営の総合センター創設事業 ～こどもから大人まで、だれもが自分の意思で来られる居場所プロジェクト～</p> <p>CFAでは創設以来、困難状態にあるひとり親家庭が食費やキャンプなどの行事料金も含めてすべて無料で通える民間の学童保育を公的な補助を受けずに独自で運営してきた。しかし、学童保育という仕組み上、保護者の申し込みがないと通うことができない。そこで、学生ボランティアと共に「こどもが自分の意思だけで来ることのできる居場所」として「駄菓子屋 irodori」という居場所を開設した。民家の一部を借りて2年半運営をしてきたが、フリースペースは20人ほどでいっぱいになってしまい、休みの日などは入りきれずに帰ってしまう子がいる。</p> <p>また「すべてのこどもが自分に合った本と出会えるように」という想いで、2024年2月より同じスペース内に「感情図書館 hidamari」を作った。独自に考えた「感情分類」という手法で本を分類し、こどもたちは「親と喧嘩した時」「寂しい時」「元気な気持ちになりたい時」などその時の気分にあわせた本を選ぶことができる。しかし、irodori内にあるため多くの本を置けず、あそぶスペースと静かに本を読むスペースが近いため「自分の悩みに対して本を通して向き合う」ことが難しい環境になっている。また、保護者や地域の大人が興味を持ってくれているものの、基本的にこどもだけの居場所となっており参加しにくさがある。</p> <p>そこで、本事業ではCFA本部ビル(賃貸)の一階にirodoriとhidamariを移転、新たに親子カフェを併設することで「こどもたちの居場所」と「おとなの交流拠点」の両立を目指す。こどもたちが自由に遊んでいるときに保護者がカフェでゆっくりしたり、商店街で買い物をしたり、サウナや露天風呂のある銭湯でゆっくりすることもできる。子育て支援の専門職やボランティアも常駐しているため、何気ないおしゃべりも子育ての相談もできる。地域のさまざまな団体と共同でイベント開催したり連携もできる。</p>
14	一般社団法人 つなぐ子ども未来	名古屋市昭和区	<p>本の世界で豊かな子どもの居場所づくり ～相談支援窓口を同室にした本のある居場所づくり～</p> <p>私たちが実施しているひとり親家庭を中心とした生活困窮者向け食糧支援事業「みんなのれいぞうこ」の利用登録者向けに、①ひとり親家庭が立ち寄ることができる、本のある居場所の整備と拡充 ②ひとり親家庭向け相談支援事業の実施 ③居場所スタッフへのスキルアップ(メタファシリティ等)研修による居場所の質の向上 ④ひとり親家庭の就労体験や経験の場としての提供 ⑤ひとり親家庭向けに本を使用した交流、体験イベントを開催します。</p> <p>現在「つなぐハウス」(居場所)と「つなぐカサ」(相談所)の2拠点が 있습니다。しかし、食糧支援の倉庫も兼ねているため、子ども達のスペースはとても狭く、建物の老朽化と耐震性の低下などのリスクがあります。現在も「つなぐ文庫」として担当スタッフが児童書を書架に並べていますが、そもそもスペースが狭く、周りが遊びで賑やかな中で、子どもが本に手を伸ばし、豊かな読書の時間をつくるには厳しい現状です。本事業により移転して「本のある居場所」を整備することで、ひとり親家庭が安定的に立ち寄れる第3の居場所を確保し、ひとり親家庭への生活サポートである食糧支援と、それに結び付いた相談事業による個別相談や座談会も充実して実施することができます。たくさん本がある居場所では、親は生活再建のための新たな知見が得られ、子どもはいろんな本に手を伸ばし、見知らぬ世界へのあこがれや、今とは違う世界の想像、また、新しい知識への意欲を持</p>

				つことで、親子共に自己肯定感を育む環境となり、自立への一歩をつくるのが可能であると考えています。また長期の休みには、本とのふれあいや学びを再確認できるような、ひとり親家庭向けのイベントの実施を行います。行政機関、児童相談所、学校や社会福祉協議会などと連携を更に図り、持続可能なひとり親家庭向けの支援が、地域で展開できるよう進めていきます。
--	--	--	--	---

*受付順

*事業概要は各団体の申請書(事業計画書)からそのまま転記しました。